

3月のさろんテーマ

「逸村逸品」を語ろう

【ゲスト】野口智子さん(NPO スローライフジャパン事務局長 ゆとり研究所所長)

丸山 薫さん(NPO スローライフジャパン逸村逸品担当 (有)スカリオン代表)



いい“むら”からはいい物が生まれる、いい物
はいい“むら”を育てる、そんな考えの運動をこ
れからどうやって展開していくのか？ 今回は
“逸村逸品”を語ろう”です。(以下、講演要約)

〈野口智子さん〉

■「逸村逸品」誕生のいきさつ

私は、まちおこし、商品開発に携わってきました。
静岡市の商店街活性化の仕事で、ひとつの店にひとつ
の逸品を育てましょうという「一店逸品運動」を始め
ました。すると、お客様たちは商店街の逸品のカタロ
グを見てこれなら買いたい、人に薦めたいと評判にな
ったのはもちろん、よその店の逸品を意外と知らな
かった商店同士で交流ができて、運動は大成功でした。

全国から視察が来て、各地でこの運動が展開されて
います。特許をとればよかつといわれますが、特許で
狭めるよりも、どんどん広めたいという気持ちです。

一店逸品運動を始めて 20 年近くになりますが、こ
の考え方を町や村の地域おこしに取り入れられないか
とかねがね思っていました。一昨年、富山県高岡市で
スローライフ・フォーラム開催時に、各地自慢の逸品
や高岡の逸品約 80 点を集めて展示する試みをしまし
た。また昨年 11 月に奈良県川上村で行われたスロー
ライフ・フォーラムでは、全国 47 都道府県から 100
アイテムの品物を集め、「逸村逸品展」を開催、今年 1
月の青森市フォーラムでも同様の「逸村逸品展」を開
催しました。

「逸村逸品」は、いいむら・まちからいい品物が生
まれていく、いい品物を作るところは、いいむら・ま
ちに育っていくという考えからついた名前、なんと
かこの考え方が広められないかと考えています。

■「逸村逸品」の要件

私たちはスローライフ時代の逸品とは何かと議論し、
その要件を次の 8 つではないかと考えました。

- ① 地域資源を活かしたもの
- ② 地球にやさしいもの
- ③ 心と身体を健やかにするもの
- ④ 生活提案のあるもの
- ⑤ 物語と技を感じるもの
- ⑥ 納得価格で買やすいもの
- ⑦ 美しいもの、楽しいもの
- ⑧ まちづくりや住民の動きが感じられるもの

■ストーリー性が命の「逸村逸品」

「逸村逸品」の物語性についてご紹介してみましよう。

鳥羽市菅島は 750 人の強い風で知られる島。風を利用
してここではなんでも干す。干す文化がある。そこで
特産の伊勢海老の一夜干に挑戦、これが美味しい。ち
ょうど遷宮の年、伊勢神宮の方向から吹く風に干され
た目出度い干物ということで、取材が押し寄せた。

新潟県胎内市は大変細かい米粉ができる工場を日本
で初めて作った。胎内市民は米作りに熟練している。
他の作物に手を出すよりも米粉用の米を作れば休耕田
も活きる。で、農家は米粉用の米を作り、飲食店は米
粉メニューを出し、米粉のまちづくりをすすめた。市
民が米粉をクレープ状に焼き、肉、野菜、デザートを
巻いて食べる食べ方を開発。回転鮎店までもが、この
メニューを何種か出している。

他にも野迫川村の「榎」や栃木県那須町の「おいし
い那須暦」、守山市の「ふなずしパイ」など、地域を育
てる逸品がたくさんある。

〈丸山 薫さん〉

■日本の地域の素晴らしさを発見！！

私は芸能界の広報を仕事にしていますが、スローラ
イフ・ジャパンのお手伝いをする中で、素敵なものに
興味があったので、47 都道府県の逸品を探しだすこと
をやってみました。デパートの催事場や銘品展示会、
雑誌、ネット、口コミいろいろ当りました。

おばあちゃんが孫のためにつくっていたおやつが商
品化された長崎市の「ちくわの孫」、デザインも品質も
すばらしい南海市の「やさしいたわし」、上勝町の木製
知育玩具の「てるペン」、金沢市特産の五郎島金時の焼
き芋「ちょいも」、伝統野菜「相模半白節成キュウリ」
でつくった平塚市の「きゅうりカレー」など多くの逸
品と出会い、連絡をとり、フォーラムで展示する 100
アイテムを揃えました。

その交渉のプロセスで商品が生まれる裏で活動して
いる人たちの熱意、ふるさとを愛している気持ちに本
当に感動する仕事でした。

〈野口智子さん〉

こうした素敵な逸品たちをどうしたらよいのか。ネ
ットで売ればよいという声ですが、それでよ
いのか。日本中にもっとたくさんあるだろう埋もれた
逸品のさらなる発掘と展示を、もっと多くの場所でや
る可能性はどうやってつくることができるか。

ぜひ、皆さんのご意見を寄せていただけるよう、お
願いいたします。(2014 年 3 月 18 日)